



# 篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～

令和5年5月26日

6月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目2 7 番1号 TEL045-401-9532 fax045-431-9538

## 子どもの小さな小さな表れの価値

副校長 三上 顕

運動会の練習も熱を帯びてきました。運動会に向けての子どもたちの姿を見ていて感心したことがあります。それは、子どもたちが、教師から直接「そろえる」ための指示をされていなくても、自然と子どもたちの演技がそろっていったことです。不思議ですね。別の場面の踊り方の話をされているのに、なぜか自然と子どもたちの動きのタイミングや大きさがそろっていくんです。曲が進むにつれ、どんどんそろっていくんです。「子どもって賢いなあ」「人の動きを見て自分の動きを変えられるってすごいなあ」と、外や体育館で子どもたちの動きを見ていました。

今、非認知能力が脚光を浴びています。テスト等で測ることのできない、【積極性】、【粘り強さ】や【意欲】、【協調性】などの能力のことです。何か新しい特別な能力というわけではなく、社会を生き抜くのに必要な能力として日本のみならず世界で注目されています。先ほどの運動会の練習の場面をこの面から考えてみました。子どもの、「周りを見て自分の演技をそろえた」行動ですが、そもそも自分の周りの「人」に関心が向かなければ、「人」の演技は目に入ってきません。これは先ほどの非認知能力の中でも、【協調性】につながりますね。また、「運動会を成功させたい!」、「自分たちの演技をよりよくしたい!」と思わなければ、自分の演技を調整しようとは思いません。このように考えると、【意欲】や【粘り強さ】につながりますね。「そろえた」という姿には、このような能力が関わっています。子どもが自分なりに、「そろえようと自分の演技を自ら調整した」ことは、子ども一人ひとりから見たら小さな小さな変化ですが、それはより大きなところにつながる大きな姿なのかもしれませんね。

話は変わりますが、今月に入り、何度か4年生で算数の授業を行う機会がありました。その中で、「算数の学習をするとどんな力が身に付くと思いますか?」ということ子どもたちに問いました。様々な意見が子どもたちから出ましたが、その中に「整理して考える力」という意見が出ました。この意見は想定していなかったのでびっくりするとともに、どこかで生かせないかなと思った考えでした。チャンスはほどなくやってきました。授業の中でたくさんのわり算の式を扱いましたが、その中で2つの式だけに注目して取り上げました。するとわり算のきまりが見えてくるんですね。ここで子どもが発見したきまりは、教科書には書かれていないきまりですが、知って活用すると便利なきまりです。「多くの情報の中から必要な情報のみを抜き出す=整理」して考えたことで、自分たちなりのわり算のきまりを発見することができたわけです。見つけた貴重なきまりの発端になった行動は「整理する」ということです。「整理する」は算数のテストで直接聞かれる言葉ではないけれど、子どもたちは、その大切さに気付きました。さらに、きまりが見つかった子どもたちは、「もっともっと数が大きくなってきまりを使えばわり算ができそうだ」と考えを発展させはじめました。授業が終わった後のノートの感想には、数ある内容の中から「整理する」を見だし、そのよさに触れているものや、「もっと数を大きくしてみたい」という【積極性】や【意欲】に関わるものが多く見られました。

子どもたちの姿を観察してみると、小さな小さな表れの中に、「できる・できない」とは違った観点のとても価値ある姿を見つけることができます。「子どものそんな姿を見つけてほめていきたいな。」そのように感じた二つの出来事でした。この原稿を書いているのは23日の火曜日ですが、ここから運動会に向けてのさらに数日間で、非認知能力の育ちに関わる様々なよりよい姿を見せてくれるのではないかと思います。そして当日、子どもたち一人ひとりの、その子なりの小さな小さながんばりの姿を大いに楽しみたいと思っています。